

- ・形成外科とは
- ・開院 60 周年にあたり
病院長・看護部長
市立病院 60 年のあゆみ
写真で振り返る市立病院
- ・高校生が一日看護体験
- ・星に願いを



形成外科とは

～形成外科で割と身近な眼瞼下垂について～

形成外科医 笠井 昭吾

この 4 月から、当院の形成外科常勤医となりました、笠井と申します。よろしくお願いたします。

さて、そもそも、形成外科ではどのようなことを行っているのでしょうか。近年のネットの隆盛により、かなりことばとしては浸透しつつありますが、それでも検索上位には「形成外科とは」「形成外科・整形外科」ということばが並びます。

形成外科は、もともと、「生まれつきの見た目の変形や、手術・けがでできた傷あと・変形などを、手術でよりきれいにつくりなおす」というところからスタートしています。その元祖は 2000 年以上前のインドで、鼻がそぎ落とされてしまった人に、頬の肉を使って、新しい鼻をつくりなおしていたことにはじまる、とされています。世界的な歴史は古いのですが、日本では約 60 年前、戦後に質の悪い美容外科が横行したのをただす目的で生まれたのが始まりとされています。

現在では、少し範囲をひろげて、変形をきれいにつくりなおす治療だけでなく、傷をより早く治す治療や、体の表面の機能をよくする治療を行なっています。具体的には、口唇口蓋裂や小耳症、漏斗胸などの先天的な変形、頬骨骨折や眼窩骨折などの顔面外傷、乳がん術後の乳房欠損などの術後変形、眼瞼下垂、リンパ浮腫、顔面神経麻痺などの変性疾患、ケロイドや癒痕拘縮など傷あとに関するもの、褥瘡などの難治性潰瘍などがあげられます。

今回は、その中で、割と身近でどなたにでも起こりうる眼瞼下垂というものについて簡単に触れておきます。まぶたが持ち上がりにくくなり、視界が狭くなってしまうことを「眼瞼下垂症」といいます。原因は、生まれつきのものや全身の病気に伴うものなど様々ですが、高齢化社会をむかえ、加齢に伴うまぶたの筋肉のゆるみによるものが目立っています。まぶたを上げるだけでは視界が狭いので、眉毛も上げて何とか視界を保とうとするため、高齢の方の、おでこのしわの原因の一つになっています。ほかにも、不自然な姿勢になるなどのストレスが、肩こりや頭痛にもつながることがあると言われています。この話は、数年前にテレビで特集され、病院を受診する患者さんが飛躍的に増えました。

まぶたの筋肉に問題がある場合、基本的には手術治療を行うこととなります。手術といっても大げさなものではなく、局所麻酔で 1 時間程度で済むものです。

では、治療が必要かどうかはどのように判断すればよいのでしょうか。鏡でまっすぐ前を見たときに、黒目が半分以上、上まぶたで隠れてしまっているような場合は診断が簡単ですが、実際には、おでこの筋肉で上手くまぶたの筋肉の不足分をカバーできるため、症状があらわれないこともよくあります。

チェック方法としては、目を閉じて、眉毛を上から押さえたまま目を開いたとき、しっかりものが見えるかどうかを確認する方法が簡単です。まぶたの力だけでは目が開かないという場合は、知らぬ間にストレスが加わっている可能性もあるので注意しましょう。



手術前



手術後

開院 60 周年にあたり



病院長 五十嵐 俊久

大和市立病院は、本年7月5日に創立60周年を迎えました。当院は1955年に「大和町国民健康保険直営病院」として、病床数24床、内科、外科、産婦人科の3診療科で開院し、「国保直営大和市立病院」「国保大和市立病院」の名称変更を経て1968年2月に「大和市立病院」としてスタートしました。その後、病床数、診療科数を増やし、現在では病床数403床、28診療科となりました。

大和市医師会、近隣医師会、県医師会、厚木保健福祉事務所大和センターはじめ関係諸機関の皆様の御支援・御協力のもと、また市民の皆様、行政、市議会の御理解のもと、歴代の院長をはじめ職員一同が市民の皆様の健康と生命を守るために尽力してきたことが当院の発展につながってきたものと考えます。

医療を取り巻く環境は相変わらず厳しい上、少子・高齢化により社会構造や人口構造、疾病構造が大きく変化し、医療ニーズ、介護ニーズなども変わっていく医療・介護の大転換期にさしかかっています。このような状況においても、歴代の職員がたゆまぬ努力で築いてきた地域の中核医療機関としての診療体制や機能をさらに高めるとともに、医療・介護・福祉関係諸機関との連携等をより充実・発展させてまいります。

～市立病院 60 年のあゆみ～

昭和 30 年：大和町国民健康保険直営病院として発足。

病床数 24 床

(診療科：内科、外科、産婦人科)

昭和 31 年：小児科、耳鼻咽喉科、皮膚泌尿器科を置く

昭和 32 年：眼科を置く

昭和 34 年：市制施行、名称を国保直営大和市立病院に

変更。病床数 77

整形外科を置く

昭和 43 年：名称を大和市立病院に変更。改築工事竣工

し、現在地に移転、診療を開始する。病床

数 206

昭和 45 年：救急病院の認定

昭和 46 年：本館 4 階増築工事竣工 病床数 314

昭和 51 年：4 階南病棟改造工事、別館病棟改造工事

竣工。病床数 280 脳神経外科を置く

昭和 54 年：本館増築工事竣工 病床数 337

昭和 57 年：人間ドック開設

昭和 59 年：麻酔科を置く

平成 4 年：完全週休二日制の実施

平成 5 年：新築立替工事完成。新病院での診療を開始。

病床数 403

平成 10 年：災害医療拠点病院指定

臨床研修病院の指定

平成 11 年：心臓血管外科を置く

平成 15 年：びょういん発、発行開始

平成 16 年：病院機能評価認定病院となる

神経内科を置く

院外処方実施

平成 19 年：血液内科を置く

平成 20 年：リウマチ科、腎臓内科を置く

平成 22 年：7:1 看護基準取得

呼吸器外科を置く

平成 23 年：糖尿病・内分泌内科、乳腺外科を置く

定数条例改正 病院職員定数 530 名

平成 24 年：地域がん診療連携拠点病院の指定、DPC

(診断群分類包括評価) 対象病院の指定

平成 26 年：救急棟全面稼働開始

歯科口腔外科を置く

平成 27 年：形成外科を置く

～歴代病院長～

初代	風間	茂
2代	根元	儀一
3代	村田	太郎
4代	伊藤	秀夫
5代	田村	武司
6代	遠山	隆夫
7代	大宮	東生
8代	五十嵐	俊久

開院 60 周年にあたり

祝 開院 60 周年

看護部長 山田谷 節子



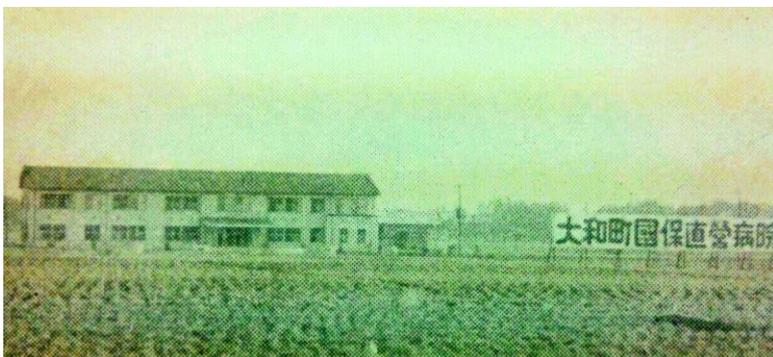
昭和 30 年 7 月 5 日に国民健康保険直営病院として、病床数 24 床で誕生し、今年 60 年ということは、人間で言えば還暦という区切りの年です。

開設した 7 月の職員数は医療職 10 名、一般行政職 11 名の総数 21 名でスタートしたと聞きます。その中で看護部は内科・外科・産婦人科の混合病棟 1 単位の 24 床を、看護体制は「拘束性」で 7 名で管理していたそうです。今では「拘束性」という看護体制がどのような体制だったか知るすべもありませんが、患者の安心と安全を確保する体制だった事は間違い無いと思っております。

60 年を迎える今、看護部も常勤看護職員 324 名(専門看護師 2 名、認定看護師 5 名含む)、技能職員 3 名、非常勤看護職員 119 名の規模にまで、病院の発展と共に成長させて頂きました。看護部長補佐を 2 名に増員、看護部教育担当 2 名、精神看護専門看護師 1 名が専従として看護職員のメンタル支援と継続教育・人材育成に関わっております。このような成長を遂げられたのも、当院が大和市民の信頼という土壌にしっかり根付き、地域住民によって水と栄養を与えられ、時に働く職員が豪雨、突風が起きる度に防波堤になって様々な問題に立ち向かっていった賜物だと感謝しております。

2025 年に向けて、病院完結型の医療から地域完結型の医療への転換を求められている中で、当院は地域住民の安心を確保しながら、強化すべき病床は何か選択を迫られています。看護部はどのような病床機能に変更、転換しようとも、地域住民の安心、安全な尊厳のある暮らしを支えていきたいと考えております。

～写真で振り返る市立病院～



左上は、開院 5 周年記念誌に掲載された、大和町国民健康保険直営病院時代の写真

右上は、開院 30 周年記念誌に掲載された病院全体の写真

左下は、救急棟が完成した現在の病院全体の写真

右下は、平成 26 年に全面稼働した救急棟 (手前)



平成 15 年に発行が始まった本誌も、今回で第 50 号の記念号を迎えることができました。これからも皆様に様々な情報を発信していきたいと思っております。

『高校生が一日看護体験』

今年で25回目となる「一日看護体験」。夏休み期間中、市内在住・在学の高校生を対象として、患者さんとの触れ合いを通じて看護の仕事への理解を深めてもらおうと毎年実施しているものです。

参加者も年々増えていて、この体験に参加して当院の看護師になったという職員もいます。

白衣に着替えた高校生は、看護師の付き添いのもと、体位交換や昼食の配膳、車いす介助などの仕事を体験しました。

参加者の多くは看護師を目指しており、ベテラン看護師が笑顔で患者さんと接する姿や、細やかな心配りを目の当たりにし、将来への夢を膨らませていました。

参加者の一人は「患者さんへの気配りが大切だということがよく分かりました。大変ですが、やりがいのある仕事だと思いました」と話していました。



～星に願いを～



今年度も病院正面玄関に大きな七夕の笹が登場しました。飾りつけは病院ボランティアの皆さんのご協力のもと行われ、とても趣のある笹となりました。

来院された患者さんや付き添いの方がそれぞれ願いを短冊にしたため、七夕の日には笹は短冊でいっぱいになりました。



大和市立病院では、ボランティアスタッフを募集しています。希望者は病院総務課総務調整担当（046-260-0111 内2346）へお問い合わせください。

大和市立病院で働きませんか!? 職員募集中!

お気軽に
ご相談下さい!

<お問い合わせ先>

病院総務課 総務調整担当

TEL:046-260-0111 内線 2347



人間ドックのご案内

コース	料金	実施日	時間
基本コース	54,000円	月～金	8時～12時30分
脳ドック	43,200円	水・金・(土はオプション無)	

当院では日帰りの人間ドックを行っています。年に一度は定期的に人間ドックを受け、病気の早期発見や早期治療に努めましょう。その他にオプション検査もご用意しています。詳しくは病院HPをご覧ください。

人間ドック室：046-260-3372（直通）